



IRS

ニザミ・ギャンジェビー880

ラミヤ・イスマイロワ

ニザーミー・ ギャンジヤヴィー

有名なアゼルバイジャン詩人

バクーでニザミ・ギャンジェビの像
アブドゥラフマノフ彫刻家



今年には有名なアゼルバイジャン詩人、ニザミ・ギャンジェビ(Nizami Gancavi)の生誕880周年にあたる。中世イスラム文学の偉大な代表、ニザミ・ギャンジェビは叙事詩でリアリズムの創始者で、世界文学の発展に重要な影響を与えた。

ニザミ・ギャンジェビの伝記に関する資料を二つのグループに分けることができる。一つは詩人が活躍していた時代の資料及び詩人自身の作品、二つ目の資料グループは詩人が亡くなった後現れたものだ。イスラム世界の中世詩人の伝記が「テズキレ」と呼ばれる詞華集及び伝記資料に基づいて研究される。しかし、テズキレは他の人の好みや教育によって書かれたものだ。桂冠詩人についてのテズキレが圧倒的に多い。桂冠詩人に関する情報を編年史にも見つけることができる。なぜなら、編年史には国王の活躍とともに、その時代の詩人及び国王の保護を受けた詩人についても書かれていた。現在、ニザミ詩人が生きていた際に書かれたテズキレが知られていない。彼の伝記に関するアンソロジーが15—18世紀に書かれ、その時代の要求を応じて作成されたものだ。アンソロジー作者が作品を書く際、よく間違えていた。例えば、「ニザミ」ペンネームを持つ各詩人(約10人)の作品を間違えて、ニザミ・ギャンジェビに与えた。ニザミ・ギャンジェビは桂冠詩人ではなかった。それが理由で、彼に関する情報は編年史にもない。

したがって、詩人伝記の唯一正確な資料は彼自身の作品である。ニザミはペンネームで、詩人の本当の名前はイルヤス、父親名はユスフ、祖父名はゼキ・ムアッヤドだ。「ニザミ」は「真珠を糸に通す」及び「調子の良い話し方」の意味をしている。ニザミ詩人は自分の確実な生年月日を「ホスロブとシリ」叙事詩の「本書作成の弁明に」という章で挙げている。そこに自分が獅子座で、「ホスロブとシリ」をヘジラ紀元575年に40歳の時に書き始めた」と指示している。それゆえ、ニザミ・ギヤ

ンジェビはヘジラ紀元535年(1141年)に生まれ、誕生日は8月17日から8月22日までの間であったと(その年の獅子座期間)。



ンジェビはヘジラ紀元535年(1141年)に生まれ、誕生日は8月17日から8月22日までの間であったと(その年の獅子座期間)。

ニザミ・ギャンジェビはギャンジャ市に生まれ、人生の大部分もギャンジャに過ごした。詩人の家族や親戚に関する情報がない。ニザミが亡くなった後、彼の家族や素性について以下のことが書かれている。15世紀の作家ドウラタシャフ・サマルカンディはニザミにギワミ・ムタリッジと呼ぶ詩人兄弟がいたと書いている。しかし、詩人の時代に関する資料ではこの情報が挙げていない。18世紀の作者ハジ・リュトファリベイはニザミ詩人の「イスカンダルナメ」という作品の引用句を源にし、ニザミがイランのクム市に生まれたと主張している。それにしても、この引用句はニザミの死後加えたものだ。学者のベルテルスも「イスカンダルナメ」の最初のバージョンにはその引用がなかったことを証明した。20世紀の研究者が一つの源もなく、ニザミの父親が官吏で、クマ市

ニザミ・ギャンジェビの陵 (最新撮影)



からギャンジャへ引っ越したため、ニザミはクム市出身だと強調していた。

16-17世紀後、ニザミの作品には以下の追加が現れてきた。

1. ニザミの家族は工芸-刺繍に従事し、詩人のペンネームもそれと関係していると。(ニザミ-刺繍を並ぶこと)
2. 母親はクルド人で、詩人が生まれた一世紀前の支配者シャッダディド属と親戚だったと。
3. ニザミは両親を早期に失ったため、叔父のハジ・ウマルに育てられたと。しかし、それを証明する資料が全くない。

以上のことがニザミの死後何世紀もわたり、知られていない筆耕者によって詩人の叙事詩に書き加え、確実な情報ではない。

詩人は若い頃をギャンジャに過ごした。詩人の作品を研究していた学者の意見によると、彼は軍事や農業に関係なく、市のインテリの家族に生まれ、大きくなった。詩人の家族が職人の仕事をしていたことも現実的ではない。なぜかという、ニザミはその時代にして優れた教育を受けたからだ。詩人は普通

のメキテブとメデレセの教育と共に補足の教育も受けた。それは家族の財政がよく、勉強に時間が豊富にあったことを示している。(職人や商人の子供が余裕時間がなく、早期に家族の仕事で親に手伝っていた。また、その頃は紙やインク、文房具はけっこうお金がかかる商品だった。)詩人はアラビア語及びペルシア語や、シャリヤト(イスラム法典)及びフィクフ(イスラム教で行動の標準)、アヒラグ(倫理学)に精通していた。ギリシアの古代作品から引用し、プラトンの「国家」に討論までも書いた。それに、天文学、占星術、数学、化学、地理学、歴史、ファキフ(心理学)、タビブ(医学)の分野で知識を持っていた。こんな様々な分野に精通していたニザミを一つの科学の専門家に属しにくい。彼は哲学者やグノーシス派の人としても知られている。イスラム教の様々な分野で詳しい、自分がスーフィズム派の人ではなくても、作品にスーフィの影響がよく出てくる。

以上のことから彼の親はニザミが国王のもとに働いてほしかったことを推測できる。詩才のあるニザミは宮廷に必ず成功するに

「ニザミ・ギャンジェビ及びアゼルバイジャンのアタベク国」展覧会。アゼルバイジャン国立歴史博物館、バクー市



違いなかった。原因が微妙でもニザミは宮廷での仕事を断り、詩人の道を歩むことを決めた。活躍していた頃でも人気のある、尊敬された詩人だった。彼の多量の作品がアゼルバイジャン及びトルコ系国の支配者によって注文された。詩人は叙事詩にも挙げたように、書いた作品に高い料金をもらっていた。ギャンジャ市にある詩人の御陵の墓銘によると、彼は1209年に亡くなった。

ニザミ・ギャンジェビは2万以上のベイト(詩の押韻2行の連)を作成した。詩人の死亡後そのベイトが「ディワン」(詩集)に収集された。若い頃、詩人がカシダ(東洋諸民族の詩、量が多く、一つの音節韻で、5員の作)、ルバーヤ(東洋の4行詩)、ガゼル(東洋の叙情詩、作家と作家の尊敬、礼拝する者が対比される)を書いていた。

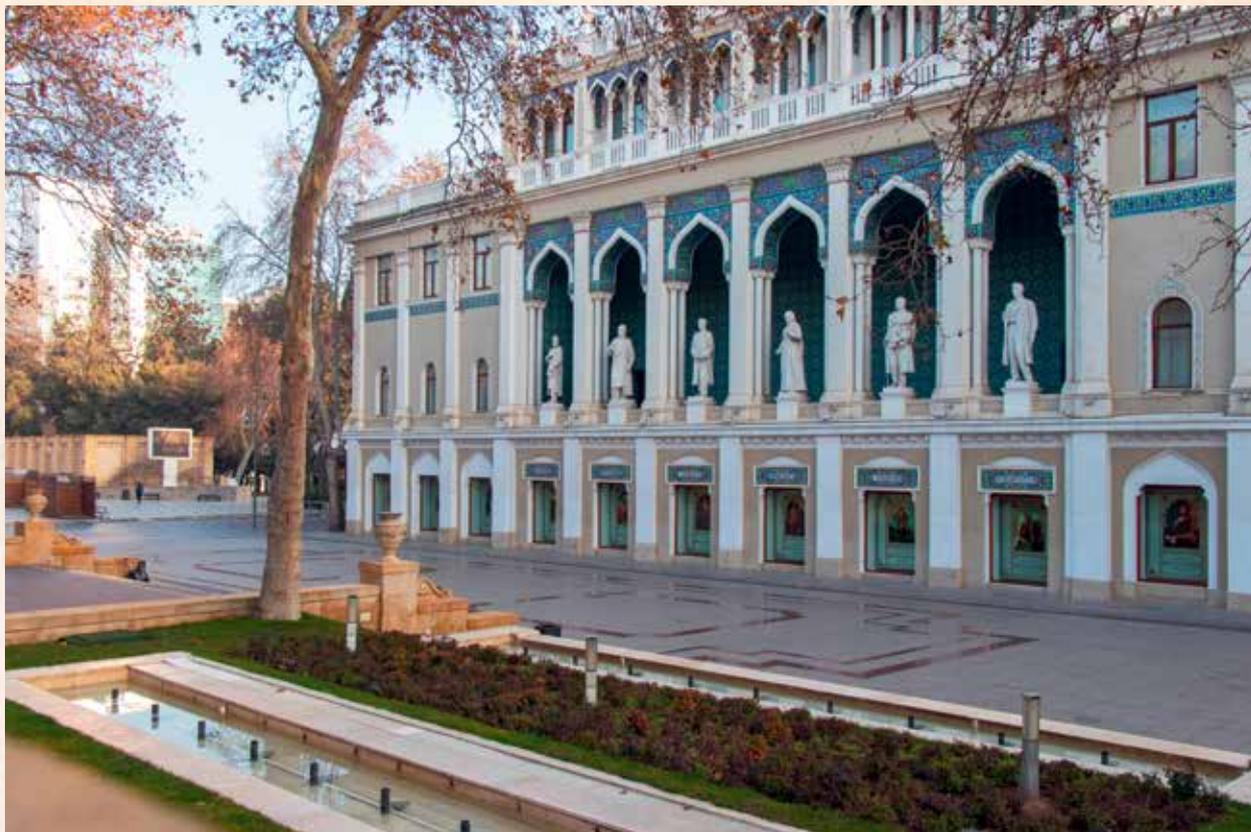
しかし、世界的に有名になったのは「ハムサ」という集に集まれた5つの叙事詩のおかげだ。「秘密の宝庫」という叙事詩が1163年に書かれ、エリゼインジャヌの国王ファフラディヌ・バフラムシャーに捧げられた。「ホスロブとシリン」は1175/1176年～1191年の間、アタベ

クのムハマド・ジャハン・ペヒレバンと彼の兄弟のキゼール・アルスラヌに書かれた。1188年に書かれた「レイリとメジュヌーン」はシルバンシャーのアヒシタヌ1世に捧げられた。1197年に書かれた「7人の美人」はマラガの主任アラジン・コルペ・アスランに、1194年から1202年の間書かれた「イस्कヤンダルナメ」はアハラの主任ノスラト・アル・ディン・ビスキン・モハマドに捧げられた。

各叙事詩が簡単な文語で、中世詩の規準に基づいて作成されている。しかし、主題の劇性や出来事を表す方法や主人公の性格及び特徴が異なる。ニザミの作品は彼が活躍していた頃から20世紀にかけて東洋及び世界文学には大きい影響を与えた。ニザミの叙事詩に数多くのナジレ(詩的な返事)や模倣作が知られている。芸術の細密画にも詩人の作品がよく使われていた。ニザミの叙事詩が東洋文学で最も挿絵された作品の一つだ。19世紀からヨーロッパの学者でも詩人を引用していた。

1947年に破壊された陵の代わりに、中世アゼルバイジャン陵にた御墓が建てられた。

ニザミ・ギャンジェビ名のアゼルバイジャン語及び文学博物館、バクー市



ニザミ・ギャンジェビの創作研究にあたって、アゼルバイジャンの東洋学者及び文献学者が大きな貢献をした。研究者のクリムスキ、ベルテレス、スヴァトチョブスキ、オルシュタドの意見では、ニザミの作品がトルコとペルシア文化の総合を表している。アゼルバイジャン作曲家のハジベイリ、バダルベイリ、ニヤジー、アミロフ、カラエフは何回もニザミの叙事詩を元にオペラなどを書いた。ニザミの伝記が五回ぐらい映画化された。アゼルバイジャンの画家及び彫刻家のハリゴフ、アブドゥラフマノフ、アブドゥラエフ、シャフタフティンスカヤ、また、作家及び劇作家のオールドゥバディ、グセインなどがニザミ及び詩人の叙事詩の主人公を自分の作品で表現した。アゼルバイジャンのバクーやギャンジャなどにニザミの銅像があり、通りや区域、公園、地下鉄駅、学校、科学的研究所、博物館はニザミの名を持っている。また、アゼルバイジャン政府に「ニザミ・ギャンジェビ名金のメダル」が設定されている。

アゼルバイジャンの政府及び公共団体、特にヘイダル・アリエフ基金は詩人の創作宣伝のため、様々な活動を行っている。詩人の作品は何か国語に翻訳されている。1991年に詩人が850歳に至るため、その年がユネスコによってニザミの年として発表された。ニザミ・ギャンジェビに関する国際会議はワシントン、ロスアンゼルス、ロンドン、タビリズに行われた。モスクワ、サンクトペテルブルク、デルベント、チェボクサリ(全てロシア)、ローマ(イタリア)、北京(中国)、タシケント(ウズベキスタン)、キシニョフ(モルドバ)にニザミの記念碑がある。マーキュリーのクレーターの一つにニザミの名が付けている。1941年に封鎖されたレニングラードで行われた「ニザミ・ギャンジェビ800歳」の科学会議の記念に2014年3月13日エルミタージュ美術館にイベントがあった。

アゼルバイジャン共和国の大統領令で2021年はアゼルバイジャンで「ニザミ・ギャンジェビの年」として発表された。◆